

【現状・課題・目的】

道南地域の民有林においては、造林作業等の低コスト化や造林作業の担い手不足等が懸念されています。また、素材生産においては、地形が急峻なこと等から、高性能林業機械の導入や、間伐材の搬出や林地未利用材の利用等の様々な課題があります。

これらの課題解決には、施業の集約化や施業の低コスト化が必要となっています。

取り組みに当たっては、振興局や各自治体、事業体等の地域の林業関係者との連携が重要となっています。

【これまでの取り組み】

施業の集約化と効率的な間伐の推進に向けて、モデル的に八雲町や長万部町等に働きかけ、森林整備推進協定の締結に向けて協議を進めています。

また、民有林での列状間伐モデル林の設定や、工程管理プログラムの研修会、一貫作業システムの導入による施業の集約化・効率化などに関する各種の現地検討会、路網の現地確認と検討、ドローンの勉強会等の様々な取り組みを行っています。

【平成31年度の取組予定】

＜効率的な施業の推進に向けた森林現況等把握＞

森林経営計画の作成や、集約化した施業の検討に当たっては、幅広い森林情報と精度の高い情報把握が必要となっています。GPS機器やドローン等の活用により森林現況を把握整理し、路網作成支援ソフト等の関連プログラムの活用により、多角的な路線の検討や共同（中間）土場の設定等を進め、集約化や効率的な路網などの具体的な検討を進めます。



＜ドローン等の活用勉強会＞

自治体でドローンの配備が進んだことから、森林情報把握等へのドローンや関連プログラムの活用を実践していくために、ドローンの操作・データの活用方法等に関する勉強会を開催し、技術的な支援を行うとともに、地域で具体的な活用方法を検討していきます。



＜低コスト施業の普及＞

一貫作業システムの普及・定着に向けて、国有林の一貫作業システムによる事業地において現地検討会を開催します。検討会では民有林での実践に当たった問題点や課題を把握整理し、地域にフィードバックするなど地域の議論を深めていきます。



【今後の目標】

効率的で低コストな施業の普及・定着

今年度の 取り組みで 目指すところ

○森林現況等を的確に把握し、効率的な路網についての具体的な検討を進める。

○地域林業へのドローン等の活用について、地域での具体的な活用手法を検討していきます。

○一貫作業システムの実践に向けた問題点や課題を整理し、地域の議論を深めていきます。

令和元年度 取組結果

低コスト施業の推進に向けた取り組み

渡島森林管理署

目 標

効率的で低コストな施業の普及・定着

令和元年度取組

取組の内容

取組の成果

効率的な施業の推進に向けた森林現況等把握

集約化した施業の検討に当たり、昨年度、署のドローン活用推進チームと町の担当者とが共同でドローンによる森林の現況調査を行い、また、路網線形作成のための民有林と国有林を合わせた図面を作成した。



今年度、町の担当者が現地を踏査し、振興局と打合せ今後の施業に向け検討し、来年度、町有林内の森林作業道作設のための測量設計業務を発注することになった。

ドローン等の活用勉強会

自治体でドローンの導入が進んだことから、森林情報把握等のためドローンの安全な飛行や操作に関する講習会を開催した。
また、オルソ化、3D化出来るパソコンとソフトを用いてそれらの活用例を紹介した。



ドローン活用勉強会の実施により、ドローン操作の技術の向上を図ることが出来、ドローンを活用するためのツールとしての下地ができた。

低コスト施業の普及

造林コストの低減を図るため、従来の地拵えや植付の作業方法を抜本的に見直し、車両系林業機械を活用して伐採・搬出～地拵～植付を連携して同時に行う「伐採造林一貫作業」の普及を目的に現地検討会を開催した。



伐採造林一貫作業現地検討会の実施により、造林コストの低減、軽労化等を紹介することが出来、今後、民有林への導入・拡大を検討する機会となった。

目標に対する達成度

ドローンの活用勉強会、また、伐採造林一貫作業の現地検討会において、国有林での取組を紹介することで理解を深めてもらう場ができた。また、路網線形作成のため自治体自ら活動することができた。

次年度の取組予定

- ・集約化した施業の実施に向け町と連携をとり検討を進めていくなかで、具体化できるようサポートしていく。
- ・ドローンの技術的な支援を行うとともに、地域で具体的に活用できるようサポートしていく。